

自転車利用実態定点調査報告

平成28年 12 月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成 28 年 11 月 16 日
[午前]8:00~8:50

調査場所 ・ 都立〇〇高校(共学)
概要 ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間			車種	種別	危険走行状況					
	歩道	車道	歩道			車道	歩道	車道	歩道	車道	
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											

調査日時	平成 28 年 11 月 16 日
天気	曇
調査時間	8:00~8:50

<調査票>

【コメント】

◎走行空間においては、車道左側走行率は、1%であり、歩道走行率は、99%の結果であった。

◎危険運転行為は、片手運転(32件)・カバン背負い(27件)・立ち漕ぎ(19件)・並列運転/ハンドルに荷物(各12件)・ギター背負い/イヤホン使用(各2件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

同校の生徒においては、歩道通行者が主体であったが、極一部の生徒が左側通行をしていた。

原因として、幹線道路に面しており、交通量も多いことが考慮される。

車道を避けて歩道を通行せざるを得ない状況となっているが、歩道(幅員2m~5m)も場所により広めなため、安全策として歩道を通行していると思慮される。

校門前は、更に広く8m程度ある。

なお、危険運転行為の中では、片手運転が、全体(106件)の約30%(32件)/カバン背負いが26%(27件)を占めていた。

事故を招きやすいため、止めるべき行為である。

また、カバン背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が必須である。

なお、校門直前での左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数620人)の4割程度である。

校内には、自転車駐輪場が複数整備(総収容台数300台)されていた。

なお、自転車駐輪場は、学年毎に区分けされていた。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

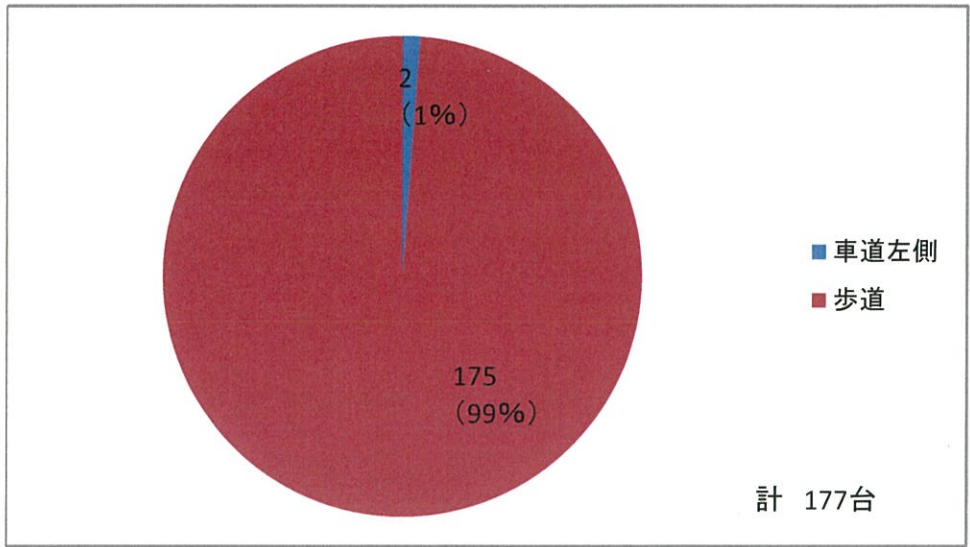
今回、自転車通学用の校門は、正門の1箇所だけであった。

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われて

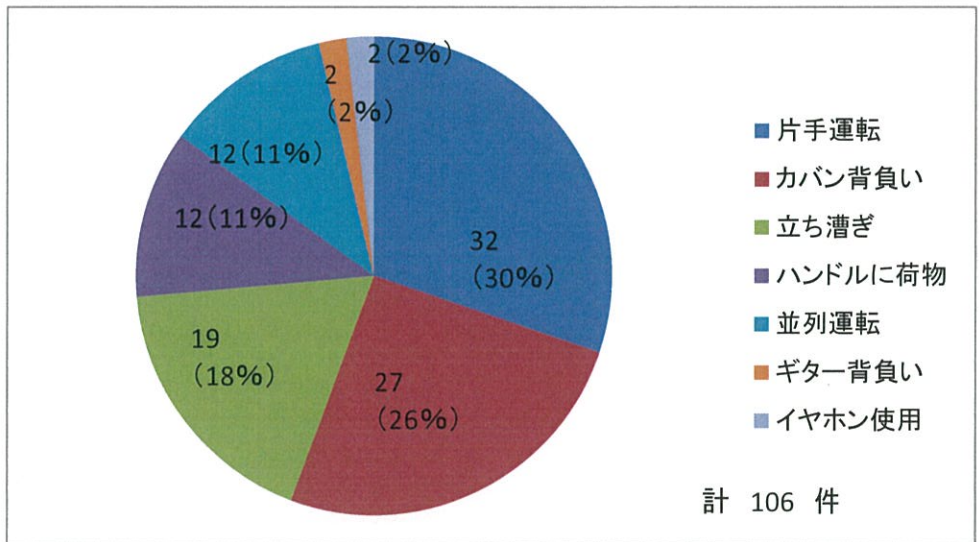
おらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、交通安全啓発の一環として、毎年4月に各学年毎に自転車乗り方教室を実施している他、年に1回、全校生徒を対象に交通安全教室(地元警察主催)を開催している。

	
自転車駐輪場(全景)	同左拡大(1学年用)
	
同上拡大(3学年用)	自転車駐輪場(2学年用)
	
自転車駐輪場(奥側)	



走行空間



危険運転行為